

概要

9月8日～12日 トリノにて

主な活動内容

- トリノ大学の研究活動のプレゼン
- 大学施設案内
- 国立公園の見学
- 米の研究所見学
- トリノ周辺を散歩

トリノ大学の研究では、ぶどうが盛んに栽培されているため、ぶどう用に開発された収穫器具や農薬を散布する機械(特に安全性に優れたもの)について説明を受けた。研究以外にも広大な幹線道路を活用し新たな取組みを行おうと学生たちが計画、トリノで最も大きな森林公園で在来の生物や古くから存在する木を保護しようとする活動の説明を管理者から受けた。トリノの森にある大きな問題は土壌の性質であることがわかった。

そこには*flahipam(フラッジパン)と呼ばれる土壌が存在している。これは非常に固い層で地表付近から1m弱の幅であった。ナラの木がそこには元々存在するのだが*これの影響で根の成長が妨げられ倒木する恐れがあるという。さらにアメリカから移植された木の競走力が強く在来種植物(ナラの木)などに悪影響を与えているという話があった。

ミラノとトリノの間に位置している米の研究所ではトリノ大学と連携し主にジャポニカ米その中でも数十種類のジャポニカ米の栽培研究をしている話を聞いた。その地域では、日本のように年間の平均気温が高いわけではないため十分な収穫が出来ないと問題視していた。また地理的な問題で、そこでは日本のように大量に水を使用することは出来ないため1度圃場で用いた水を浄化し水路に通して再び川へ戻すという水の利用方法には驚いた。

感想

英語が完璧に話すことができなくても好奇心を持ってこれは何？この機械はどう使うの？など大学の学生や先生に質問すると教えて貰えるので沢山コミュニケーションをとってより良い時間を過ごして欲しいと感じた。片手間にメモ帳とペンを持つことを勧める。



図 1: トリノのレストランにて



図 2: 左上; 研究施設、右上; 国立公園にて、その他

サマースクール ハノーファー、コブレンツ編

概要

8月13日~28日 ハノーファーにて

主な活動内容

- ライプニッツハノーファー大学にて活動、研究の説明
- 現地の大学生とハノーファー周辺を観光
- 電力会社の見学
- 湖にて環境問題
- 牧場の見学
- ビール工場見学
- ドローンを用いた実習の様子を視察
- 観光 炭鉱博物館にて
- 水利施設管理会社の活動報告会参加
- 観光 古城にて

ハノーファー大学では地理学、森林学専攻の学部生から大学の取組みの説明を受けた後に地元周辺を観光しながら残りの滞在を楽しんだ。地元の学生との寮生活は特に刺激がありプログラムよりも学生との会話が弾みより良い時間を過ごすことができた。



図 1 ハノーファーにて



図 2 コブレンツにて